

18日蘇我、19日佐倉にて青年部支部間交流会成功

日刊
動労千葉

80.8.25

No. 516

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆)五三三・二七二七

組組破壊
の策動許さず
5510各、ジェット阻止の総決起

動労千葉青年部は、一八日蘇我、一九日佐倉の両支部において「支部間交流会」を行なった。日帝・鈴木内閣は、登場以来ますますい軍事大国化攻撃をかけてきている。軍事大国化攻撃の柱である三里塚二期強行とパイプライン工事強行・ジェット燃料貨車輸送延長攻撃、そして三五万人体制の初年度にあたる五五・一〇ダイヤ改悪の攻撃が同時にかけられてきている。韓国では、全斗煥の大統領就任や金大中氏への死刑攻撃など、世界と日本は戦争への道をひた走っている。われわれは、日帝の軍事大国化阻止、五五・一〇ダイヤ改悪阻止、三里塚二期工事阻止の闘いを結合し、今秋闘争を闘い抜かなければならぬ。今秋闘争の爆発にむけた青年部の意志結集をかちとるべく、交流会は圧倒的成功をおさめた。

五五・一〇「ダイヤ改」阻止へ
青年部は先頭にたつ



ジェット・京葉ルートの拠点=蘇我の駅には、今も成田市民の会から送られた横断幕が大切に飾られている。

一八日、蘇我支部に幕張・館山・勝浦・木更津の各支部青年部員三〇名が参加し行われた。本部青年部からの基調報告は、日帝の軍事大国化攻撃と五五・一〇の情勢、そして動労大改革、三里塚二期工事阻止、金大中氏への死刑攻撃粉碎、軍事大国化阻止の九一〇月闘争への総決起の方針が提起された。

この後、各支部から最近の当局の対応、「本部」の動きや、各支部独自の闘いの報告を受けていった。特に、木更津からは、定期的な学習会を行っていることと二八ページにおよぶ機関誌「前照灯」特別号の発行が報告された。勝浦からは、「まだまだ五五・一〇に対する燃え方が足りない。青年部が先頭に立ってやらなければいけない」などの意見が出された。最後にこの間、蘇我支部青年部に対し反動的な対応をして来た支区当局に抗議と申し入れを行い終了した。

佐倉支部青年部二一〇名が参加

一九日の交流会は、佐倉支部に新小岩・津田沼・千転・成田から結集して開催された。冒頭、佐倉支部の堀口支部長からのあいさつを受けてはじまった。佐倉支部青年部からは、若い仲間二〇名が



貨物合理化とジェット輸送の一大焦点=佐倉では「55・10・563」を真正面にみすえ、若い力の総決起が始まっている。

参加し、支部青年部結成から三ヶ月ながら、裏切分子・土屋らとの闘いから団結がかちとられていること、五・二五三里塚には二〇名が参加したことが報告された。成田からは、当局・「本部」反動分子一体となった布施組織部長への処分に対し全組合員が怒りを感じていること。また定期的に学習会を行っていることなど。千転からは、マル生闘争から今回の不当処分紛争闘争までを身振りを入れた具体的な闘いの報告がされ、若い青年部員は先輩がかちとってきた動労千葉の闘いの伝統を継承・発展させる決意を燃した。新小岩・津田沼からは、「本部」派組合員が昨年以來一人も増えていないこと、そして「本部」派の業務再開路線のベテナ性が具体的に暴露された。

こうして支部間交流会は、大成功をかちとった。全青年部員は、五五・一〇粉碎、九・一五三里塚現地闘争、一〇・一二一九、一〇・二一反戦闘争を最先頭で闘い抜き、青年部定期委員会の成功へむけて総決起しよう!